



藤屋 侃士  
(下松市幸ヶ丘)

38

### 旅する民・ケルト

前回ふれたカステラとチヨコレート発祥の地、アストルガにはもう一つ有名なものがある。

建築家ガウディの建てた司教館である。ガウディの建造物のほとんどはバルセロナにあり、ガウディについてはその時にふれることとして先を急ぐ。

北スペインを横断するフランスルートのサンティアゴ巡礼もいよいよ大詰めで、目的地まであと三百\*余り。アストルガを出発してレオン山脈の上りの

は何もない。帰国して調べてみる。

山道は、歩く巡礼者にとつては最後の難所である。

標高千三百\*のセブレイロ峠に着く。ここには小さな村があり、今まで見たことのないわらぶき屋根の石造りの住居が目につく。

ガイドが「これが、パヨサと呼ばれるケルト人の住居です」と説明した。

〈森の民・ケルト〉

突然、ケルト人の名前が出てきたので驚いた。ケルト人という名前は何度も聞いたことがあるが、詳しい知識

わらぶき屋根のケルト人の家



ケルト民族は紀元前一七〇〇年ごろ中央アジアの草原から馬と車輪つきの戦車、馬車でヨーロッパに進入。紀元前八〇〇年ごろ、スイス、オーストリアのあたりで独特な文化圏を築いた。

自然崇拜の多神教で神の木としてオークを大切にし、森の民と呼ばれたが、彼らは一度も統一国家を作ったことはない。

その後、トルコなどの東方ケルト、ヨーロッパ中部の中央ケルト、イギリスなど島のケルトに分かれながら

ヨーロッパ全域に広がっていく。

しかし、新しく侵入してきたローマ軍に敗れ、さらにゲルマン民族から追われ、次第に西の地域に追い出される。

そして、フランス西部、イギリス、アイルランドに今も住み、独自の文化を持った民族である。スペインにも中央ケルト人がピレネーを越

れたのは、ピレネー山脈の山岳地帯に住み、ローマ軍などが侵入しなかつたためである。

同様に、セブレイロなどのケルト人もへき地の山の上だったから他民族と融合することもなく、生き延びられたのかもしれない。

何と三千年以上の歴史を持つ民族なのである。そして彼らの言語はインドの言語に非常によく似ているそうである。つまり、今から三千年前、アジアの草原地帯からヨーロッパに移住してきたこと、この証なのである。

私はバスク人のことを思い浮かべた。ヨーロッパに住む人たちは言語学的にはインド・ヨーロッパ語族なのに、バスク人だけは全く異なる独自の言語を持っている。それが現代まで守り続けられている。

妻が土産にケルトの文様の入った食器を買った。その文様は日本の家紋に実によく似ている。

ケルト音楽のCDを聴きながら思い出す。

サビエルはヨーロッパからアジアに来た。ケルトの先祖は、それより三千年前、アジアからヨーロッパにやって来たのだ。何と壮大な歴史を持つ民族なのだろう。そして、私もその歴史の中に生きているのだ。(元山口放送取締役ラジオ局長)



土産に買った

ケルト文様の食器